



# SSKUあまねだより

**発行** 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会  
 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17  
 ゲルドゥーラ・祖師谷102

**編集** あまね共同作業所  
 〒239-0805 横須賀市舟倉1-12-1  
 TEL 046-833-4035 FAX 046-887-0678  
 2026年4月9日 第502号(頒価20円)

## 42年目を迎えて - グループホーム 学会の記事から -

桜の花が今年も見事に咲きほこっています。会議の際に横浜・横須賀道路を走っていると、周辺の山々がうすピンクに染まり、『あ～今年もきれいに桜が咲いてる』と思いながら車を走らせています。つかの間の幸せを感じる時です。

いつも、定期的に届くグループホーム学会の冊子の中に、ここ数年危機に立つ移動支援とグループホームにおける生活の質について載っていました。皆さんと共有したいと思い「あまねだより」に書かせていただきます。問題提起をされたのは、大阪の障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議【略称障大連(しょうたいれん)】の細井 清和さんです。「危機に立つ移動支援とグループホームでの生活の質」-人材を確保する裏付けとなる「お金」が必要-ショッキングなタイトルですが、グループホームも移動支援の事業所を運営する私にとっては他人事ではない内容でした。

「移動支援事業は今、大きな危機に瀕しています。移動支援サービスの確保自身が困難になってきているのです。これはグループホームに関わるみんなにとっても、障害者運動全体にとっても、実践的にも制度的にも非常に重要な課題になっていると思います。

グループホーム運動とは、何よりも「親に依存しない生活を求める運動であり、「入所施設での制限・管理された生活」ではなく、障害者が地域でいきいきと暮らす生活を作りだしていく運動であると思います。(もちろん、事業者や家主が高い利益を得るためだけの運動ではないはず)「障害者の生活」という視点が不可欠であるのはいうまでもありません。(中略)生活の質(QOL)は日常的な食事や入浴、日中活動、そして「外出・余暇支援」や様々な社会参加によって規定されています。グループホームでの生活における「外出・余暇活動」は本当に大事な、そして必要不可欠なサービスです」と冒頭に書かれています。

横須賀でも、たけのこ会の故川島美行氏が障害者自立生活運動を提唱し、移動支援や重度訪問介護の実施に力を尽くし、知的障害者も移動支援の恩典を受けられるようになりました。大阪での自立運動の出発は「そよ風のように街にようよう!」「知的障害者のガイドヘルプ」運動がその原流になり、「移動支援事業」につながったとのこと。大阪の移動支援事業は運動によって施設入所者のも利用できるようになり、きょうされん全国大会において「暮らす」の分科会の席上、大阪の入所施設の取り組みを発表したなかで「移動支援」が施設でも利用できると聞き、思わず「利用できるのですか?」と質問をしてしまい、当然のように大阪の事業所の方から「運動して勝ちとった」と伺い、改めて移動支援の仕組みが市町村事業であるが故に差が生じていることに気が付きました。

生活介護やグループホームなどの事業については国は義務的経費として掛かった費用は国・県・市で負担割合はあるもの全額保障され、処遇改善加算もあり年々単価も上がっています。一方で移動支援については市町村事業ということで事業開始から20年来単価の見直しがなく、横須賀市でもやっと昨年度移動支援の単価が上がりましたが、三浦半島地域の他の市町村でも使い方や単価には大きな隔たりがあります。

自立支援法以降、法人格をもっていけば福祉サービス事業に参入できるとされ、多くの企業が「福祉ビジネス」に参入し、人材確保のための処遇改善の取り組みが進められる中で、市町村事業である「移動支援」は収入にならないという理由で撤退する事業所が相次いでいます。あまねでも他の事業所を利用されていた方が事業所の撤退によって移動支援をお願いされますが、人材不足で断らざるを得ない状況が続いています。

市町村事業の課題は、必要経費を全額対応する義務的経費と異なり、統合補助金として市町村に配分し市町村の実態に合わせて多くのメニューの中から選ぶとされていることです。その結果「統合補助金」の枠を超えた部分は市町村の持ち出しとなることです。移動支援の事業は支援費制度となり爆発的に利用されるようになりました。その結果として市町村は移動支援に掛かる事業費の抑制を求めてきます。このことは国の制度そのものを変えさせる必要があります。今は多くの方にこの事実を知っていただき、機会をとらえて国に働きかけをしていきたいと思ひます。(海原・記)

第22回

## 全国大会 in 神奈川のお知らせ

主催

障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会

日時

2026年9月26日(土)～9月27日(日)

1日: 13～17時

テーマ: 「災害対策について」

「入居者委員会と“いきいきと”について」

「意思決定支援について」

※夜は懇親会も予定しています。

2日: 9時～12時

Aプログラム「入居者プログラム いきいきとワークショップ」

Bプログラム「講座」

会場

神奈川県立保健福祉大学

(神奈川県横浜市平成町1-10-1)

最寄り駅 京急線 県立大学駅 徒歩5分

誰もがかけがえのない尊厳をもつ存在。

様々な考え方がある仲間のおもいを大切に。



## 賛助会にご協力をお願いします。

私たちは地域社会のなかで、障害のある仲間たちが豊かに安心して暮らせるように、障害があっても、住み慣れた、生まれ育った街で安心して暮らしていただけるように、仕組みを考え支え合いながら、進んでまいります。

多くの皆様に法人の取り組みへのご理解をいただき、賛助会員として法人を支えるサポーターになっていただくことを願っています。賛助会費は税額控除の対象になります。

少しですが製品もプレゼント

## ・ 4月 予定

資源回収の一年分の予定を、2月、3月で生活介護事業所で手分けして配布しています。届かないご家庭の方はお手数ですが本部事務所 ☎046-833-4035にご一報くださるようお願いいたします。

4月 10日 (金)	資源回収	(池田・岩戸)
4月 11日 (土)	資源回収	(舟倉・久比里・若宮台)

## ふきんとお茶販売のお知らせ

きょうされんふきん  
750円(3枚一組)



静岡県牧の原産やぶ北茶  
1,000円(200g)です



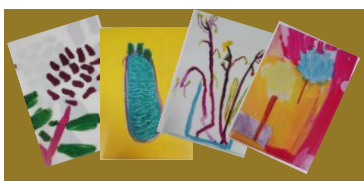
ご注文はあまね共同作業所まで  
☎046(835) 0723

なかま美術作品をモチーフにデザインされた商品ができました！  
あまねオリジナル商品をぜひご購入ください。

販売場所:ともしびショップマリン(横須賀市役所内)・ワークハウスあまね



A4クリアファイル (4種 各350円全種セット1,200円)  
A4トートバック (【黒・白】各2,200円)  
サコッシュ (【裃化】 1,500円)



左から:クリアファイル  
:トートバック  
:サコッシュ

資源回収ご協力  
ありがとうございます

2月実施分は13,318kg  
奨励金は53,200円でした

次回日程は確認してください

## ヘルパー募集

あなたの『笑顔の力』を試してみませんか

知的に障害のある方々が生活を楽しむためにサポートをするお仕事です。  
移動や外出の同行、身体介護(入浴・更衣・トイレ介助)や生活援助(調理・洗濯・掃除)を行います。

【給与】時給 1300円

\* 8時迄と18時以降+325円 身体介護+200円

【時間】8:00~19:00 \*都合の良い時間に1時間~OK

【資格】介護職員初任者研修(ヘルパー2級)

【待遇】交通費規程支給・処遇改善手当あり